

# プロレタリア通信

No.11

書記局学対部

革命的學生の課題――

安保改訂調印阻止のゼネストを  
準備せよ！

書記局学対部

4.21

「一、政治的空白に衝撃を！  
学生運動の転換は言葉ではない」

今や、共産主義的学生の負つてゐる緊急雀眉の課題は、1959.『学生運動の転換』を言葉もつて讀むのではなく、神妙にとりおなわれつゝある。ただれを次の支配者に送るかの儀式に全ての指導部が道をあけている最中に、この『転換』を事実もつて示す事であらねばならない。はじめ警時法でつまづいた岸政府が政治的には巧妙に迂回作戦として平和な雰囲気もつて政治的過程をつみだん踏みした安保改訂を小たび新たな動力をもつて展開し始めようとしている。事が一方にはある。岸や藤山は、藤山試案（二月一八日）アーレタリア通信（参照）を基とした改訂要綱案によつて実際の交渉を進め、その過程で一たん露呈した与党内部の派閥抗争を、結束の方向に向わせ、「自主性回復」の名のもとに民族意識を煽りながら、それがあつかもましくも「選舉のみやけ」にしてしまうといつわけである。もちろん、こうした策略は官僚の狡猾な手によつて権力裡に進められていて、あるから、はつきりとした階級的自覚にたたなしに指導部に対してもこれぞ、たゞよりの選挙力ンパニア以上のものは期待することもできない。このまゝな状態では強烈な頭脳をもつとみなされている多くのインテリゲンチヤが「自主性回復」の改訂は必ずしも悪くないといつくな

出で、脳入つてゐるのも無理はない。しかし、これは他の側面がある。既存の指導部が奮斗を怠り、下部大衆の苦難に満ちた斗争を離れていない不満や不信の心が中級下級の幹部をどうえい結集されない。そこで、この問題に対する抵抗も京橋・和歌山等において激烈な駐場勤務報復人事に対する抗議も京橋・和歌山等において激烈な駐場斗争のきさしをみせながら、燃えさざる前に消しとめられてしまつた。斗わなくてはならぬという感情が眞しな活動家を捉えてはいるが、それが一つの物質力に凝集するたりにはこの平和な雰囲気をぶち破る衝撃が必要なのである。このようき事情のもとでは学生が鷦鷯の役割を果すことにはかないにありうることである。又、うせねばならない。だが学生運動をして、如何に労働運動を一歩でも正しく階級的立場へおしやるのに役立たしめるかとしつか仕事も自覚しながらせねばならない。学生運動の教材が言葉以上のものであればやりとげる。だが「学生運動の教材」が言葉以上のものであるかどうかを試す試金石となるのだ。

三月の下旬、東京地裁の法廷において、あの血に縁られた砂川斗争に下された判決が、政治的空白に大きな衝撃を加えようとしている時に、革命的學生は、運動の転換に伴つてあらわれた組織内部の葛藤との斗争に応戦して、スターリン主義の域内においては、トリーバイ主義者をもつてしても大衆の信頼をつなぎとめておくことはできまいといふ事情のもとでトロツキードクマキスムに横ともつ新しい装いをなした日和見主義へアーレタリア通稿10・社会主義の旗が頭をもたげていたのである。われわれは眞摯の階級意識を手先に握り、塔の木警察との斗争を有効に押し進める事は、組織内部の闘争に対する非和解的な斗争を通じて、われわれの立場とは、きりと階級的自覚につくに繋がることによって可能

している。

しおぎさげする斗争が始ろうとしている。

斗争を見送ることによって日本アルジョアジーの陰謀を許すか、ゼネストを中心とした実力行動によつて改訂の陰謀を粉碎する事に成功するか、この二つの道の選択は我々の上にかゝつてゐる

だつたのである。だが学生運動の転換は言葉だけのものではない。砂川判決が投げかけた波紋の振幅を拡大し、それを総合的に役立たし得るのは、裁判所内部の反動的体制の編成過程の中でやの恥を投げうつ覚悟をもつた「良心」的な裁判官に抱かしたり声援を送つたりする」とさすまへれるものではなかつた。林誠を政治的煽動によつて大獄を即刻組殺し、それによつて、大衆斗争の拡大の条件を作りあげて、事が必要であつた。政治方針に沿る思想上における偏向と、わねばならなかつた東京の革命的學生は、かゝる自己批判的立場にたつて、この過程で大衆斗争の組殺のための体制を作りあげていった。新しい学年がまた本格的に始まる四月一五日には早大（一八〇名）、東大（一四〇名）を中心とした五百〇〇名にのぼる学生が、折から再開された安保改訂交渉の中止を要求し、官憲の彈圧（柳原翠翠連委員長他一名の検束）を経つて首相官邸、外務省等に战斗的空手シストレーシヨンをかける事によつて戦いの火蓋は切られた。この战斗的行動は、僅かに夜のカンパニア集会によつてお祭りにされようとした安保改訂交渉いかに发展させるかの糸口を与えた。選挙成一本懸にあがたる努力組合の中・下級幹部のあいだにも行動への刺激がおこつた。だがこれは斗争の第一歩ですぎない。

「十」に作りあげると共に更に次の斗争の大衆的拡大のために斗争する。全曰いたるところでも学生戦線内部の同盟員は、二八日の金曜連考例えは北海道では実際に五〇名もの活動家によつて松大中執が開かれた（鬼全戦斗体制に入つた学生の多数を接待し、战斗的行動などれどれどもいれることによつて、学生運動にしたがいをもつて、学生運動の転換一学生運動と労働運動の結合を論ずるだけでは斗争には前進しないからである。

また一方では、アルジョアジーの交渉も急いで手に展開しようとして

## 立 交渉の新たな展開

病院患者としての復旧の本原をあらわした性格總が大變方違つて新時代に於ては、と導くには、學術法にて深き医学を圖り、不和まじき萬能を宣しに及ぶる。日本一國の手にて、而して中止せしむられ、ついで安保改

この内は、たゞなつた。ハセツノ無事にて、又、その際難くほ、岸の木戸の裏壁と居向者の手ひの、ヒアヌリカ勝利王者とかあいだの内我の身体の評価で相違などござり、スルシヨウシヨウの所詮審査会が於て公衆前で宣教せずに何とかなる、ほんとある。

（主義的幹部）大半は、さうして終盤せしめすや、その間に済程を組つて、改進交渉を急げり、手を離し、いわば「済事のみで」げし小川兄弟のカクトウと之出し、士官院内へかモ二つの並べてのり出しがたのである。

三四六は、前場審査報告、席田幹事長らにてつて席山幹事にじとづく問題點を列挙する所であつて、ハ日以降役員会、輪問会計、外務調査

第一回主義政争に於いて敗北により、慶密余儀なくされ、不平等の条約を、その強化として、力量によすわしい軍事もの公使遣せんとする、と云ふアーヴィングの説が切り開かれて日本アルジヨアジーの陰謀は、とにかく實験法を中心としたアサシンの資金拠点として今日迄いだらねばならなかつたのである。アメリカ帝曰主義者並に、帝曰主義者の支配強化によって特權の放棄充代價に結束したる帝曰主義者の支配強化によるアルジヨアジーへの力を動員せんとして、越天（西）東を出した時（西太平洋一帯への共圖院地地図の蔵大一にし、是以て、帝曰主義者としての威信を具備する爲め一層はとくにとひつこことナシレシムのアーヴィングの声明）。彼はもう一つの実勢的政策努力（實験法）に反對する専門家大歟の力量によそゆを抱いでその構想（岩橋想）を放きし初期の自主性復興に改訂を中心が原（庚子甲子ノ麻山試案）や、一方で自主性の核大に反対するアーヴィング（帝曰主義）特に日本の要求の

方食を本題にした。

米行政協定の改定は既往分担金の削減、「保有解雇」へスパイ容疑などの解雇へも過剰活動等に及ぼす「日ハ撤退、通商、課税、特权、競争等の日本の自立化をめざし具体化したことでも「内政ヲタキ内政からなつて」いる。

マリックアーヴィ大統領アンドレ太宰津公議會が出席べよつて一時に歟されば日本交渉官二十三日には再開されざるをあらう。

一二二四、明治四十五年春の該事場控へ次のような要素が存在する。  
（一）在地の通商の活性化と併つて西ヨーロッパに於て帝國主

美濃原に伴つてヨーロッパにて帝國主義の再編成が進行して  
おり、マクニランの東西改修軍事の政策によって現在に達した英獨  
帝國主義者の基盤はドイツ帝國主義者の手に有利に傾きつあり、「テ  
ナムアーヴの大統領は保護によつて予想される外交政策の変動と進化せ  
る西ドイツ帝王義の新たな強権の形式にすぎぬことである。この帝  
國主義者内の力關係の変更は「世界市場の魔王」であるアメリカ帝国  
主義者にとっても現実的憂慮を迫られるものとなつておりダレスに代  
るハーテーの出現は筆なる偶然事ではないのである。そしてアイゼン  
ハウアーは四日アチスベーグ大学において「自由開拓の相互生存にお  
ける日本の課題」を強調した。これらは日本帝國主義者の間に日本帝  
國主義者の力の回復に伴つた一定の取引が成立する可能性を与えるも  
のの一つと示してゐる。

このような計算の上にもたつて昇は遂季前の調査完了の後に全方  
面始じ始めたのである。かくして交渉改訂をめぐる動向は余断の許  
さないものとなつた。

重「文部省改訂阻止」「井内閣打倒」のセネラルストライキを  
進捗せよ。」

それに対して著者の反対の体制は急速には組織されなかった。むしろ、争議は、「公的・体制打破」か「無約束」かの非生産的論議方に進展した。

を宣傳せよ。  
すべての革命的學生はそれがその部署たつて大衆行動の組  
織にヒリがかれ。

かくして、わが同盟員の学生運動内部における議論はあきらかである。二十九日、官保発動記念日にて、すべての自治会に於て大衆的行動を可能ならうとする爲め全力をあげるべく決意された。そこで、その行動の改定阻止と、具体的目標の明確化があげられ、學生大會は、改訂の進行する所を、改訂歩きの推移も甚歎く、政事の利用し、學生一先駆として眞摯に國を大膽な行動で、

を採用するなどによって、空田によると、政局は過渡期の「然とした」と、「然とした」が、安保改訂の本領をハッキリし、行動を提起する前にも学生運動の歴史は、言葉を表すし、中立政策を攻撃する傾向へと向かって、思考力舒らかにから捨て去れ！ 日和見主義から勞働者を解放する事業に於てヒクトー主義の有効性を更に認識し、正しい統一戦術の熟達によって、学生の多數をかくしてせし。

そのかくで、戦争の展開を背景にして運営されたはるく、大衆抵抗組織として其斗を強め、労働者を斗いにひきこめ、その過程を通じて、五・二〇を目標にして、「選舉前の調査阻止」を具体的な課題とした、シナリオストライキをどうたらに準備立ち、ストライキでなくしては平和の斗争の伝統を有し、侵略戦争への憎しみを抱いて、りの学生大衆を根底から政治行動に参加せしめることが不可能だ。そして、それを背景にして労働者大衆への「調印段階」のゼネストのアッパー・ルを行え！ また安保問題の特殊性にかんがみて、学者、教授への働きかけを重視せよ！

調印阻止と同時に、選舉という期間が一画ではフル大衆を

- 4 -